

アーサー・ファン Arthur Huang

現在、3つのプロジェクトを制作している。自らの日常的な移動の思い出を記録する「散歩記憶」。通勤中に日々描いている「日々ドローイング」。日常生活の中の紙素材を組み合わせて制作するコラージュ「残り思い出」。近頃はアトリエキャンピンで滞在した日々を振り返りながら、谷川俊太郎の『二十億光年の孤独』を読んでいる。興味がある「記憶」と「日常」というテーマを関連付けながら、時間や宇宙の神秘、そして自然について考察する。



1972年	アメリカ生まれ、東京都在住	2022年	「押入れ百貨」旧廣盛酒造 群馬県
2001年	ロードアイランドデザイン学校 絵画・版画専攻 美術修士号取得 アメリカ	2022・2023年	「newroll select vol. 1」gallery.studio.cafe.newroll 群馬県
2021年	個展「日常再構成の注釈と発見 - 66の要素」Hasu no hana 東京都	2017・2019・2025年	「中之条ビエンナーレ」群馬県
2021年	「The Three Cornered World - Spending Each Day Meaningfully」ギャラリーカメリ	2024・2026年	「Art Fair NAKANOJO」旧廣盛酒造 群馬県



キャンプ場という場はキャンパーだけの場ではなく、誰にとっても開かれた場所です。揺らぐ火や木々、生きものの気配や声、太陽と月の存在、怖いぐらいの静寂。自力のある人が大きな自然の下で小さな自分を自覚する場。北軽井沢という土地から始まるが、あまり土地や人に引っ張られ過ぎず、自然とこれまでを振り返ったり、いまの気持ちを見つめる。何をしても良いし、何もしなくても良い。結果、自分の軸がぼんやりと浮かび上がるような時間になればとても良い。自分が変わっても良いし、変わらなくても良い。そんな、風変わりなアーティスト・イン・レジデンスとして滞在する人がいたら嬉しいと思って、アトリエキャンピンという企画を始めました。

本展は2025年に北軽井沢スウィートグラスにて滞在中の10組のアーティストによる、滞在中に制作した作品や、持ち帰ったインスピレーションから展開した作品の展示発表です。アーティストは自らの五感で浅間北麓の風土や資源をリサーチしたり、自然や人と交流をしました。そこから生まれたイメージや感覚を子どものころのままの純粋さ、豊かな感受性で見つめ直し、生まれた作品には、夢中で「つくる」という行為の豊かさを感じます。



西島 雄志 Yuji Nishijima

「存在」や、その「気配」に興味がある。空間に満たされたものを感じ取り、形を与えてみる。与えられた形から、空間を再構成する。光を通して感じとる形により、「気配」を視覚化している。今回の北軽井沢滞在中では、歩くことをテーマに周辺を散策した。滞在中に合わせて雪が積もったことで、動物たちの足跡が多くみられ近くに「存在」と「気配」を感じた。姿は見えないが「居る」感じを表現できたらと思う。

1969年 神奈川県生まれ、群馬県中之条町在住
1995年 東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻美術教育研究室修了
神話に縁の深い動物を題材に、渦状に巻いた銅線のパーツを繋ぎ、彫刻やインスタレーションを発表している。2021年に拠点を群馬県に移し、gallery newrollを主宰。2025年に自身の作品を展示する芸術空間「藝術中之条」を開館。2024、2026年には Art Fair NAKANOJO を企画開催。主な展覧会に「瑞祥 Zui-shou - 時の連なり」(2023年 ポーラ ミュージアム アネックス)、「冬の真神」(2025年 藝術中之条)、主なグループ展に「中之条ビエンナーレ」(2011年 - 2025年 群馬県)、都美セレクション展(2021年 東京都美術館)、プレBIWAKOビエンナーレ (2022年 二条城、京都府)、BIWAKOビエンナーレ (2022、2025年 滋賀県)、富士の山ビエンナーレ (2024年 静岡県)、瀬戸内国際芸術祭(2025年 香川県)などがある。



菅原 久誠 Hisanari Sugawara

ジオ、生物、文化の全ての要素は繋がっている。無秩序さと複雑さが珈琲とミルクのように混ざり合う時空の一点に佇み、複雑かつファジーな自然と社会の本質を読み解くためのヒントを丁寧に集めていきたい。2025年、冬の終わりは寂寥。森の向こうから近づく夕闇を察して、ストーブの薪に火をつけた。ゆめうつつの未明、浅間山から恐ろしく吹き下ろす風の塊たちを体感した。凍みが抜けたら春の訪れ。

1975年	埼玉県生まれ、群馬県在住	2022年	浜川アート・リラ 2022 in 伊香保 「明暗」
2013年	愛媛大学大学院理工学研究科数理工学専攻地球進化学講座博士後期課程修了	2023年	中之条ビエンナーレ国際芸術祭 「万物生光輝」
2020年	NR (中之条アーティスト・イン・レジデンス) オープンスタジオ	2024年	浜川アート・リラ 2024 in 伊香保 「爽秋、水面の輝きは」
2021年	中之条ビエンナーレ国際芸術祭 「時間と空間に関する 2, 3 の考察」、「古中之条湖 - 記憶の糸 -」	2025年	中之条ビエンナーレ国際芸術祭 「外ばかり見えていた」
2022年	日本橋 VISIONS 3人展 違う道を辿れば 「観点主義的海岸のおはなし」		

nekkomagazine syoko / yumi

北軽井沢で過ごした時間は、新しいものを生み出すためではなく、自分たちが活動する理由や、ともにプロジェクトを進める意味、自身の根底にある感覚を見つめ直す時間となった。今回の作品では「マインドマップ」を通して、人それぞれの内側にある“根っこ”に立ち返り、忘れがちな感覚に触れるきっかけを提示する。



愛知県生まれ、東京都・愛知県を拠点に活動
2024年 nekkomagazineとして活動開始
二十四節気に沿った子育てカレンダー『まわりめぐりめくる2025』を制作・販売。ともに同じ自然幼稚園で育ち、yumiはsyokoの母が運営する子ども造形教室「ソダテルABO」に小学生の頃から通う。育った環境や大人たちから受け取った感覚を未来へつなぐため活動を行い、現在は季節に寄り添った子育て・食・暮らしの提案や、ラジオを中心とした発信を行っている。

藤村 勇人 Taketo Fujimura

料理、文章、写真、どれも人から生まれる表現のうちの一つであるが、どんな表現をするにしても、押し付けも遜ることせず、「ただ存在している」というのが理想のような気がしている。生きていく中でただ漏れ出してしまったものたちの集合。



1985年	秋田県生まれ、東京都在住	2025年	ZINE『ALE & BOOKS & CIDER』エッセイ「乾杯はしなくとも」寄稿
2008年	福島大学中退	2026年	ZINE『読む！炊き込みご飯わくわく舎 vol.2』(炊き込みご飯わくわく舎)
2014年	株式会社 Backpackers' Japan 入社		
2020年	『世界で一番好きな店』(ふもと出版) エッセイ「祖父の開いた食堂」寄稿		
2024年	『ペンギンの親戚』(ふみ虫舎) 上梓、ZINE『読む！炊き込みご飯わくわく舎』(炊き込みご飯わくわく舎)		

※写真は参考作品のものを含みます